

主催者が準備・遵守すべき事項

○館内の利用について

- ・各競技団体のガイドライン等を参照の上、実施内容等を検討してください。競技中のマスク着用に関しましても、各競技団体のガイドライン等を必ず事前にご確認ください。

○手洗い場所

- ・手洗い後に手を拭くためのご自身のタオルをご使用ください。

○更衣室、休憩・待機スペース

- ・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けてください。（障害者の介助を行う場合を除く）
- ・ゆとりを持たせることが難しい場合は、マスクの着用や換気を徹底し、大声を出さない場合であれば、人と人が触れ合わない距離での間隔としてください。一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じるとともに、人と人との十分な間隔をあけた整列を促すなどの対策を行ってください。
- ・室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（テーブル・イス等）については、こまめに消毒してください。
- ・入退室の前後に手洗い・手指の消毒を行ってください。

○飲食物の提供時

- ・参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けてください。
- ・スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトルや使い捨ての紙コップ等で提供してください。
- ・飲料については、まわし飲みはせずペットボトル等個々に所有するよう呼びかけてください。
- ・飲食を提供するスタッフは、マスクを着用してください。

○観客の管理

- ・観客を動員するイベントの場合は観客同士が密な状態とならないようにしてください。
- ・選手等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じてください。
- ・入退場時の密集回避（時間差入退場等）を行ってください。

○換気の徹底

- ・換気の悪い密閉空間とならないよう換気設備を適切に運転し、定期的に窓を開け外気を取り入れる等換気を行ってください。

○ごみの廃棄

- ・鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ごみを回収する人は、マスクや手袋を着用してください。
- ・ごみの処理を行った後は、必ず手洗い・手指消毒を行ってください。

○施設の入口

- ・手指の消毒設備を設置してください。

主催者が当日の参加受付時に行う対応

主催者は以下の感染拡大防止のための措置を講じること

- 入場口やイベントのインフォメーション等には、手指消毒薬を設置すること
- 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないこと
- 受付を行うスタッフには、マスク（品質の確かな、できれば不織布）を着用させること
- 参加者が密な状態になるおそれがある場合は、入場制限を行うこと。
- 「東京版新型コロナ見守りサービス」など、接触確認アプリへの登録を周知すること
- 以下の事項に該当する場合は、自主的に利用を見合わせるよう利用者へ求めること
 - ・ 利用前7日間における次の事項の有無
 - 平熱を超える発熱
 - 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
 - だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - 嗅覚や味覚の異常
 - 体が重く感じる、疲れやすい等
 - ・ 利用前5日間における次の事項の有無
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - 政府が定める所定期間内に入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等からの入国者との濃厚接触
- 利用者が必要に応じマスク（品質の確かな、できれば不織布）を準備しているか確認すること
- 施設利用前後のミーティング等においても、三つの密を避けること

参加者が遵守すべき事項

- 以下の事項に該当する場合は、自主的に利用を見合わせること
 - ・ 体調がよくない場合（例：発熱・咳・のどの痛みなどの症状等）
 - ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・ 政府が定める所定期間内に入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等からの入国者との濃厚接触がある場合
- マスク（品質の確かな、できれば不織布）を持参し、受付などの屋内での会話や屋外でも十分な身体的距離（2m以上を目安）が確保できない状況で会話する際には必要に応じてマスクを着用すること（病気や障害等でマスク着用が困難な場合には、個別の事情に鑑み、差別等が生じないよう十分配慮するとともに適切な感染対策を講じること）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- 他の参加者との適切な距離（できるだけ2m以上）を確保すること（障害者の誘導や介助を行う場合を除く）
- 参加中に大きな声で会話、応援等をしないこと
- 感染防止のために施設管理者・主催者が決めたその他の措置の遵守、施設管理者・主催者の指示に従うこと
- イベント前後のミーティングや打合せ等においても三つの密を避けること